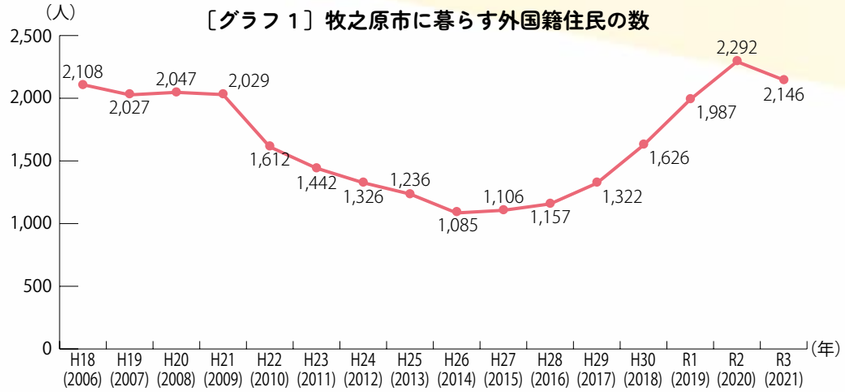
お互いに理解し合おう
～外国籍住民とともに暮らす～

牧之原市には、たくさんの外国籍住民が暮らしています。皆さんも職場や学校、地域などで見かけることが多いのではないしょうか。
これからの社会を考えると、市内に住む外国籍住民はさらに増えることが予想されます。牧之原市の外国籍住民の状況と市の取り組みについてお知らせします。

問い合わせ　情報交流課　大石佳伸　☎（23）0040



牧之原市に暮らす外国籍住民の数

本市に暮らす外国籍住民の数は、平成20（２００８）年のリーマンショック以降減少していましたが、平成26（２０１４）年を底として増加し、近年は急激に増えています「グラフ１」。

本市には、自動車関連企業を始めとした多くの工場があります。それらの工場で働いている人や、基幹産業である農業現場で働いている人が多くいると考えられます。日本人の人手が不足する中で、市内ではたくさんの外国籍従業員の皆さんが活躍しているのです。

これからはどうなるの？

国内の労働人口減少が予測されるこれからの時代には、さらに外国籍住民のパワーが重要となり、市内で暮らす外国籍住民の数は増えていくと予想されます。

市内の企業では、今後も外国籍従業員を受け入れる意向があり、外国籍住民は今よりももっと身近な存在になることでしょう。

どの国の人がいるの？

市内には、令和４年１月１日時点で、約30カ国の人が住んでいます。一番多いのはブラジル国籍の人で、半数以上を占めています。次に、フィリピン国籍、ベトナム国籍、中国国籍の人が多いです［図１］。

はじめての日本語教室

日本人も外国の人も、ともに安心して暮らしていくためには、お互いに理解し合うことが必要です。

お互いのことを知るには、日本語でコミュニケーションをとれることも大切であると考え、市では令和３年11月から「はじめての日本語教室」を開催しました。

この教室は、公募の市民サポーター（ボランティア）の皆さんの協力のもと、日本語を話せない市内在住・在勤の外国籍住民を対象として開催したものです。

［図１］牧之原市に暮らす外国籍住民の状況

［国籍別］		［年齢別］		［居住地別］	
ブラジル	1,119人（56.0%）	0～14歳	228人（11.4%）	細江地区	768人（38.5%）
フィリピン	333人（16.7%）	15～64歳	1,722人（86.3%）	川崎地区	388人（19.4%）
ベトナム	235人（11.8%）	65歳以上	46人（2.3%）	相良地区	385人（19.3%）
中国	136人（6.8%）			菅ヶ谷地区	130人（6.5%）

＊上位４カ国　　＊上位４地区

はじめての日本語教室

教室では、「やさしい日本語」に加え、ジェスチャーや表情、イラストや写真なども用いてコミュニケーションをとっていきました。最初は緊張していましたが、「日本語を覚えたい」「外国の方と交流やサポートがしたい」というお互いの想いがあり、初日の終わりにはお互いに自然な笑顔になっていました。

学習者（外国籍住民）は、すぐに日本語を話せるようになるのは難しいですが、日本語や日本人に慣れ、一生懸命に伝えようとしてくれる姿がたくさんありました。

サポーターは、学習者から母国の文化や生活を教えてもらったり、また個々人を知ることで、「一人一人違って当たり前」「国籍に関係なく同じ地域に暮らす者同士」という想いが大きくなっていったように感じました。

教室では、生活に必要となる情報についてもお知らせしました。

防災や病気、日本の文化習慣など、災害時や日常生活に関する情報や、どのようにしたら自分に必要な情報を得ることができるのか、その方法を知ってもらうことも、生活する上ではとても大切です。

サポーターの皆さんの声

- 日本語、日本のことを知ろうと頑張っている人がたくさんいることを知った
- 言葉、文化、マインドなど学習者からたくさんのことを教えてもらった
- 学習者が熱心に学ぶ姿に感動した
- みんな同じ「人」、同じ地域でともに暮らしているんだと感じた
- 外国人と話すことが怖くなくなった
- 大切と感じた情報を日常生活で実践した、家族や友人に伝えた

日本語教室の取り組みについては、市ホームページで紹介しています▶

学習者の皆さんの声

- 日本語でのコミュニケーションに積極的になれた
- 日本人と話す怖さがなくなった

日本語が分からない人とのコミュニケーションのポイント

- 01 -
「やさしい日本語」（小学生にもわかるような表現）で話す

- 02 -
イラストや写真、ジェスチャー、表情と言葉を組み合わせると伝わりやすい

ともに暮らすための第一歩は「コミュニケーション」

外国籍住民は、市の産業には欠かせない存在であり、今後ますます必要性が高まっていきます。
それに伴い、日常生活において外国の人と接する機会が増えてくると考えられます。
言葉や生活習慣の違いから、外国籍住民が増えることに戸惑いを感じる人もいるかもしれませんが、不安を感じているのは外国の人も同じです。
国籍に関係なく、同じ地域に暮らす「人」として、一人一人の違いを知り、お互いを受け入れて暮らしていくことが、日本人も外国人も住みやすいまちにつながっていくのだと思います。
コミュニケーションを図ることが、ともに暮らす地域への第一歩になります。職場や学校、地域で外国の人を見かけたら、優しくコミュニケーションをとってみてはいかがでしょうか。